

建築人

2022
4

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.694





建築人

2022.04 No.694

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「東大阪市文化創造館」2019年

第40回 大阪都市景観建築賞 審査員特別賞 受賞作品
設計：東大阪文化創造館設計・音響コンサル共同企業体
(佐藤総合計画・大林組・永田音響設計)、プレイスメディア
施工：大林組
撮影：A.P.First

文化芸術の場にふさわしいオープンスペースとは、どのような場なのか。それが、密集市街地に劣化することなく魅力を増し続けるための空間とは。東大阪市文化創造館は、その回答である。

大阪こちエエ

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

2022年3月16日に、東日本大震災を思い起こさせるようなM7.3(震度6強)の地震が福島県沖で発生した。また世界に目を向けると、ウクライナにロシアが侵攻し1か月を経過したが、停戦へのハードルは高く世界的な混乱の終息の兆しはまだ見えてこない。自然災害や人間の過ちによる戦争など、人々は過去の出来事を思い出し考え行動する必要がある。今回は120年以上続く大阪府内で唯一の路面電車である阪堺電気軌道を取り上げたい。

その歴史は古く、明治初期から中期にかけて全国に敷設された馬車鉄道が前身で、大阪市と堺市を結ぶ地元には欠かせない市民の足として利用されてきた。開業後の経営は順風満帆とはいかなかった。その後南海鉄道に吸収合併されるも、戦時中の企業統合政策に巻き込まれ、1944年(昭和19年)に南海電鉄は関西急行鉄道(現在の近畿日本鉄道)と合併したため、一時期は近鉄の一部として運行された。終戦後は南海電鉄に引き継がれ、1980年(昭和55年)には南海電鉄の子会社の阪堺電気軌道として分社化された。しかしその後も経営は厳しく、堺市から財政支援を受けたりしながら経営改善を続けてきた。

2013年には新型の低床式車両「堺トラム」を導入したり、最も古い車両の「モ161形」を動態保存するためのクラウドファンディングを実施、市民に愛され全国の鉄道ファンを魅了し続けている。

この路面電車による新旧のまちを結ぶ役割は、文化的な意義も大きく、今もこちエエを運んでくれている。

2 大阪こちエエ

4 Gallery 建築作品紹介

「アクティオ大阪DLセンター」

設計：竹中工務店

施工：竹中工務店

「北坂歯科・矯正歯科クリニック」

設計：平岡建築デザイン

施工：ケイ・アイ・エス

「フルールAn」

設計：HTA デザイン事務所

構造：高原建築構造事務所

施工：カメヤグローバル

7 インフォメーション・事業案内

8 第40回大阪都市景観建築賞
(愛称 大阪まちなみ賞) 入賞作品

12 動静レポート

13 Topics・建築相談室から

14 記憶の建築

「オリンピック・スタジアム」1964年

カンボジアのモダニズム建築に魅せられて / 松隈 洋

建築人 No.694 2022年4月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門

編集 建築情報部門『建築人』編集部

部門長：飯田英二

委員長：荻窪伸彦(編集人代表)

編集人：梅田武宏 笠井志保 河合哲夫 茂龍一之
大松俊祐 橋本頼幸 牧野隆義 三谷勝章

武藤優哉 若江直生

事務局：山本茂樹 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和4年4月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

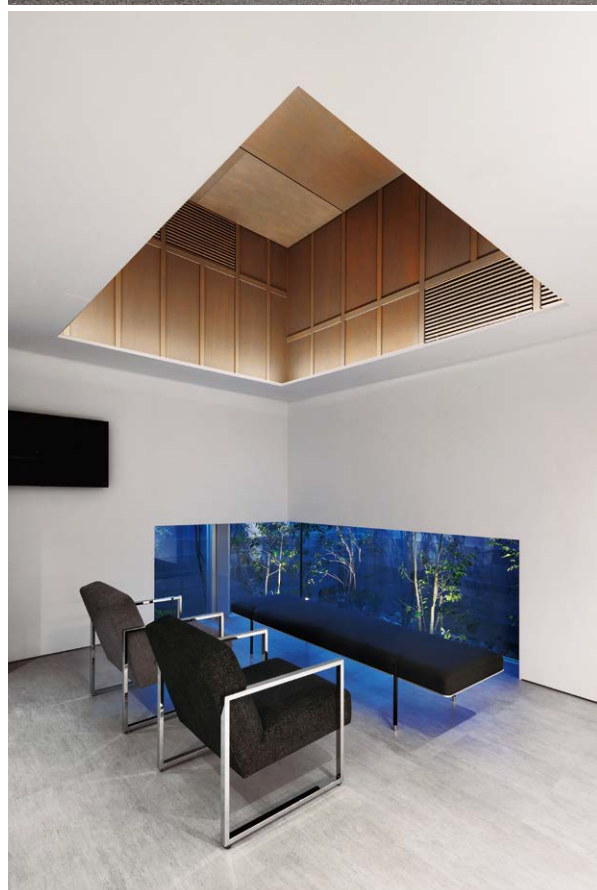
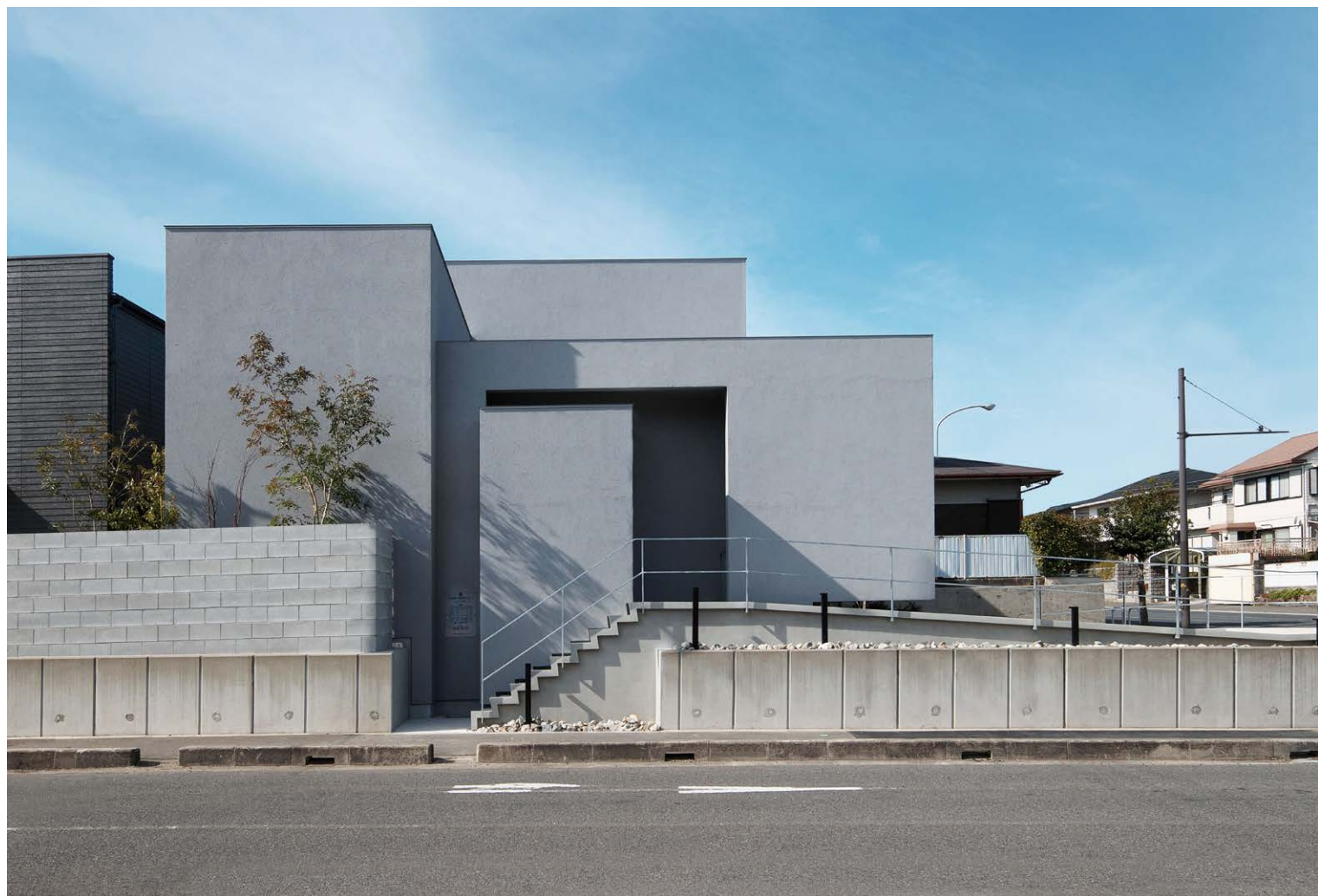
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



建設現場に必要な工事用重機や仮設資材をストックし、現場のニーズに応じて出荷供給する配送拠点である。トラックを直接建物内部に引き込み、製品の入庫・ストック・出庫の作業エリアを直列に配置することで作業の効率化を図り、タイムリーな製品供給を実現している。また建物の周囲に奥行きのあるバルコニーや庇を設けることで、大阪南港の大らかな風景と呼应する伸びやかな外観とした。最上階のオフィスフロアには大阪湾と、そこに停泊するフェリーが一望できる甲板テラスを設け、海の広がりを感じられる心地良いワークプレイスとした。建設ニーズに応えるコンサルティング機能も備える本施設が、日本の建設現場を支える重要な拠点となることを期待している。（植月司・梶山雄大）

所在地：大阪市住之江区
用途：物流倉庫
竣工：2021.07
構造規模：鉄骨造
地上4階建て
敷地面積：17,148.09㎡
建築面積：5,253.20㎡
延床面積：11,378.98㎡
写真：古川泰造



大阪南部の落ち着いた住宅街で、長年地域医療に貢献してきた歯科医院の移転である。角地を活かし、街並みに穏やかな刺激を与える佇まいを目指した。入口から待合室、診療室と進むにつれ、外部に開いて植栽や光の量が増すストーリーとしている。床と壁はシンプルにする一方、天井は素材感を活かした真壁の造型とし、照明効果で空間に温かみを与えた。設備や法の都合は、目立たないよう造型に組み込んでいる。バリアフリーで床に段差を設けられないため、天井の高低差にて変化を付け、エリアの色付けをした。地域と共に歴史を継承し、世代を超えて引き継がれるクリニックになったと思う。

所在地：大阪府和泉市
用途：歯科診療所
竣工：2022.02
構造規模：木造
地上2階
敷地面積：358.19㎡
建築面積：117.53㎡
延床面積：178.07㎡
写真：山田誠良



SDGsを建築デザインで具現化することにチャレンジした木造2階建8戸の集合住宅プロジェクト。ウッドショックやコロナ下の社会状況に対応し、国産木材の利用・地域連携による掘削土の再利用・信楽焼窯元との玄関の手洗鉢設置・再生ペットボトル樹脂の断熱材や雨水利用など、「経済・社会・環境の調和」を建築デザインに取り入れた。江戸時代から守られてきた「お地蔵さん」の向いに「みんなの広場」を設け、プライバシーに配慮しつつ、まちに開く計画、緑の植栽とアースカラーの外装デザインなど、私たちの設計理念である「人とまちを元気にするデザイン」の具現化にもなった。

(高原浩之・植村祐希・浅井幸子)

所在地：大阪府和泉市
用途：集合住宅
竣工：2022.02
構造規模：木造2階建
敷地面積：818.37㎡
建築面積：247.56㎡
延床面積：464.71㎡
写真：母倉知樹

建築士会からのお知らせ

本会主催の講習会等では座席の離隔距離確保等の新型コロナ感染防止対策を行います。受講者におかれましてもマスク着用、手指のアルコール消毒等のご協力をお願いします。
 感染状況によっては延期、中止となる場合がありますので、最新情報は本会HPでご確認ください。本会以外の事業は主催者にお問い合わせください。

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。本年6月1日より、広域緊急交通路沿道ブロック塀等耐震化促進事業（補助金）における耐震評価機関となりました。スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。
 （業務内容）
 耐震診断報告書の審査、評価
 耐震補強計画書の審査、評価 等
 （対象建築物）
 公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
 （会員特典）
 申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10％割引があります。

令和4年度建築士定期講習

5/31、6/1、7/27、8/19、9/15、10/20、11/18、12/16、1/19、2/7、3/2 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成31年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼対面講義		
日程・会場・定員		
5/31（火）	大阪国際会議場	200名
※6/1（水）	大阪府建築健保会館	50名
7/27（水）	大阪YMCA会館	100名
※8/19（金）	大阪国際会議場	200名
9/15（木）	大阪府建築健保会館	50名
10/20（木）	大阪YMCA会館	100名
※2/7（火）	大阪YMCA会館	100名
▼DVD講義		
日程・会場・定員		
※11/18（金）	大阪府建築健保会館	50名

※12/16（金）	大阪府建築健保会館	50名
1/19（木）	大阪府建築健保会館	50名
※3/2（木）	大阪府建築健保会館	50名
時間	9：15～17：00（各講習日共）	
受講料	12,980円（消費税含。事前振込）	
申込方法	申込用紙を建築技術教育普及センターHPからダウンロードしてください。（平成31年度受講者には、同センターから直接申込書を郵送しています。）	
	ご記入後、大阪府建築士会事務局又は大阪府建築士事務所協会事務局へ持参していただくか、簡易書留にて郵送してください。	
受付場所（送付場所）	※印の日程 大阪府建築士会事務局	
	※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局	
建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。		
https://jaeickosyu.jp/jaeicteikikosyu/		
注）	各回定員に達し次第、受付を終了します。	

令和4年建築士試験案内

受験申込は、原則として「インターネットによる受付」のみとなります。	
■二級・木造建築士試験	
◇インターネットによる受付期間	
令和4年4/1（金）午前10時～	
4/14（木）午後4時	
◇学科試験日	二級 7/3（日）
	木造 7/24（日）
◇設計製図試験日	二級 9/11（日）
	木造 10/9（日）
■一級建築士試験	
◇インターネットによる受付期間	
令和4年4/1（金）午前10時～	
4/14（木）午後4時	
◇学科試験日	7/24（日）
◇設計製図試験日	10/9（日）
※受験申込の詳細については、建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。	
https://www.jaeic.or.jp/	

令和4年度監理技術者講習

（監理技術者以外の方も受講可能）
 4/27、5/27、7/6、9/2 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。

日程	4/27（水）、5/27（金）、7/6（水）、9/2（金）
時間	8：55～17：00
会場	本会会議室
定員	各回20名（定員に達し次第締切）
受講料	WEB申込み9,500円 郵送申込み10,000円
申込	日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html	

INFORMATIONの詳細は本会ホームページに掲載しています。本会の事業はホームページから申込できます。
【大阪府建築士会】 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階 <http://www.aba-osakafu.or.jp/>
 メール info@aba-osakafu.or.jp TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

WEB講習会

「これだけでわかる建築基準法！」
 4/25～5/8 CPD5単位（予定）

毎年大好評を頂いています「これだけでわかる建築基準法！」を今年も開催致します。今回は3人の講師によるバワフルな布陣で解説して頂きます。学科試験に向けて準備を始めたい方、設計実務に役立つ法令知識をもう一度学び直したい方を対象に、建築基準法・同法施工令から関連法規までを学ぶ講習会となります。
 日時 4/25（月）10：00～5/8（日）終日
 ※お申込み締切 4/14（木）
 会場 Microsoft TeamsによるWEB講習会
 受講料 建築士会会員4,000円
 後援団体会員5,000円
 一般6,000円

建築家 竹内誠一郎 講演会

「新たな町家再生のデザインを極める～若手建築家が創る民家再生デザインを探る～」
 5/10 CPD2単位（予定）

現在、京都を拠点に活動し、別荘、ホテル、個人住宅などの建築プロジェクトに携わっていらっしゃる竹内誠一郎氏に「新たな町家再生のデザインを極める」というテーマでご講演いただきます。
 日時 5/10（火） 15：00～17：30
 会場 大阪府建築健保会館 6階ホール
 受講料 建築士会会員3,500円
 後援団体会員4,500円
 一般5,500円

箕面市立文化芸能劇場・箕面市立船場図書館・箕面市立船場生涯学習センター見学会+説明会

5/12 CPD3単位（予定）

昨年PFI事業により誕生した「箕面市立文化芸能劇場」「箕面市立船場図書館」「箕面市立船場生涯学習センター」の3つの施設について、箕面らしさを表現したデザイン手法、優れた音響空間の設計手法、スパイラルアップしながら変容する空間が実現した図書館の新たな形等を設計者が説明の上、普段は入ることができない劇場や図書館の裏側も含めた施設全体を見学します。
 日時 5/12（木） 14：05～17：00
 会場 箕面市立船場図書館/生涯学習センター
 受講料 建築士会会員3,500円
 後援団体会員4,500円
 一般5,500円

聖徳太子千四百年御聖忌に寄せて
『聖徳太子と四天王寺』
第三回 四天王寺の仏像を観る—仏像鑑賞の手引きとして—
講演と見学会
 5/19 CPD2単位（予定）

本会では、聖徳太子と四天王寺をテーマに

した講演会並びに見学会を全三回のシリーズ企画として開催しています。
 最終回の第三回は、四天王寺が所蔵する仏像をはじめとして、一般的な仏像鑑賞の手引きをお話いただきます。その後、伽藍、絵堂など境内をご案内いただく予定です。
 日時 5/19（木） 14：30～16：30
 会場 四天王寺 本坊 安養殿
 定員 40名
 参加費 会員1,500円 会員外2,000円
 講師 一本崇之
 四天王寺勧学部文化財係主任学芸員

“すみよっさん”でおなじみの住吉大社見学会セミナー

5/27 CPD2単位（予定）

“すみよっさん”でおなじみ的大阪市内唯一の国宝建築である住吉大社は、西暦211年に鎮座し、伊勢神宮、出雲大社と共に社寺建築の原型の様式を忍ばせるとされています。敷地内には約30もの国宝・重要文化財、登録有形文化財を有しています。今回は建築の話もさることながら、住吉大社をきちんと理解していただくために雑学的知って得するお話を権禰宜小出様にお聞きします。
 日時 5/27（金） 13：30～15：45
 会場 住吉大社
 大阪市住吉区住吉2丁目9-89
 講師 住吉大社 権禰宜 小出英詞氏
 定員 30名（定員に達し次第締切）
 参加費 会員1,000円 会員外1,500円

その他のお知らせ

2025年日本国際博覧会 休憩所他設計業務の公募型プロポーザルについて

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）会場内の「休憩所」「展示施設」「ギャラリー」「ポップアップステージ」「サテライトスタジオ」「トイレ」計20施設の設計業務を行う若手建築家20名を募集します。
 今後の活躍が期待される若手建築家に、「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインコンセプトに沿い、SDGs（持続可能な開発目標）達成につながる、意欲的かつ大胆な提案をもらい、個性豊かで魅力的な博覧会施設を創出することを目的としています。
 多くの若手建築家からの積極的な応募をお待ちしています。
 公募期間 3/16（水）～4/13（水）
 応募方法等の詳細は（公社）2025年日本国際博覧会協会HPをご確認ください。
<https://www.expo2025.or.jp/news/news-20220316-02/>

第40回大阪都市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞)入賞作品

主催 大阪府・大阪市・(公社)大阪府建築士会・(一社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部大阪地域会・(一社)日本建築協会

◆表彰目的 周辺環境の向上に資し、かつ、景観上優れた建物や建物を中心とするまちなみを表彰することにより、個性と風格のある都市景観の形成に寄与するとともに、都市景観に対する意識の高揚を図ることを目的とする。

◆対象 大阪府域内の建物(平成27年8月1日から令和2年7月31日までに完成したもの)及び建物を中心としたまちなみ(令和2年7月31日までに完成したもの)で、一般の方々から推薦を受けたもの。

◆審査委員 ※50音順 審査委員長*

嶋 高宏(デザイン)
(一社)総合デザイナー協会代表理事兼理事長

中嶋 節子(建築)
京都大学大学院人間・環境学研究科教授

藤本 英子(芸術)
京都市立芸術大学美術学部デザイン科教授

下村 泰彦(造園)
大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科現代システム科学専攻教授

久 隆浩*(都市計画)
近畿大学総合社会学部総合社会学科環境・まちづくり系専攻教授

吉村 英祐(建築)
(一社)日本建築協会常任理事

寺地 洋之(建築)
(公社)大阪府建築士会特任顧問

広瀬 和勇(報道)
朝読売新聞大阪本社編集局社会部長

◆審査総評

本年の審査対象62件(建物58件、まちなみ4件)から、例年通り審査資料にもとづいた1次審査で14件を選出し、現地審査による2次審査を行った。応募作品数は例年並みであったものの、昨年度はコロナ禍の影響で審査が中止となったため、実質的に今年は2年分の作品選考を行うことになったこともあって秀作が多く、そのため今年は2次審査に多くの作品を選出し、現地審査で確認作業を行った。

2次審査では票が分散したが、これはひときわ際だった作品が存在せず、いずれも甲乙付けがたいものになっていた証である。その中から得点の上位3点として「こども本の森中之島」「箕面滝道の橋本亭」「東大阪市文化創造館」を選び、大阪市内の作品が「こども本の森中之島」であったため、自動的に大阪市長賞の受賞となった。続いて、審査員特別賞

は建築デザインとしても優れている作品に授与するものであり、議論の結果、「東大阪市文化創造館」を審査員特別賞に選考することにし、「箕面滝道の橋本亭」を大阪府知事賞とすることにした。

「こども本の森中之島」と「箕面滝道の橋本亭」は、新たなシンボルとして存在する建築物、古風な趣を踏襲する建築物、と建築物の趣向は異なるものの、いずれも都市公園内に建てられた建物であり、公園と調和したデザインとして公園と一体となったまちなみを形成している。「東大阪市文化創造館」は公園内施設ではないが、敷地内に設けられた街角広場があたかも公園のような趣になっており、広場と一体にまちなみを形成している。緑化賞に選ばれた「都市クリエイト新社屋」、建築サイン・アート賞に選ばれた「大阪商工信用金庫新本店」は、いずれも賞の趣

旨に適合した工夫がなされたものとなっている。「都市クリエイト新社屋」は建物の北側に階段状にセットバックさせ、全面に緑化を施すことで緑に包まれた建物デザインとしている。「大阪商工信用金庫新本店」は、この敷地に建っていた東洋紡本町ビルの屋上に設置されていた建築家今井兼次氏のレリーフを新社屋の2階部分に移設保存をし、アートによるまちなみの演出を行っている。

以上のように、今年は審査員の票は分散したものの、賞の選考にあたっては賞の趣旨に合わせて選考は円滑に行われた。



審査委員長 久 隆浩

審査風景



大阪府知事賞 箕面滝道の橋本亭



建築位置：箕面市箕面2-5-37
完成年月：2020年3月
主用途：商業施設
建築主：箕面FMまちそだて(株)
設計者：(株)アルファ建築設計事務所
施工者：一字工業(株)
撮影者：奥田慎二郎

〈講評〉明治43年(1910年)に旅館として建築された旧・橋本亭は、箕面大滝に向かう滝道にある一の橋のたもとに佇む風情ある建物として、100年以上市民に愛されてきた。しかし、平成28年(2016年)に発生した崖崩れで撤去され、復元の要望を受けて建築されたのが、本物件である。こうした経緯のもと、旧建物の風情を継承すべく、部材の再利用を行い、とくに歪みのあるレトロガラスを再利用することでガラス格子建具で構成される旧建物のデザインをうまく踏襲し、箕面公園の緑と調和した景観を構成している点が高く評価される。(審査委員長 久 隆浩)

大阪市長賞 こども本の森 中之島



建築位置：大阪市北区中之島1-1-28
完成年月：2019年12月
主用途：図書館
建築主：大阪市(安藤忠雄建築研究所が建築主として施工後、大阪市に寄贈)
設計者：安藤忠雄建築研究所
施工者：(株)竹中工務店
撮影者：安藤忠雄建築研究所

〈講評〉中之島公園の一郭に建つこどものための施設である。中之島通りと堂島川に面した細長い敷地に、弧を描く打ち放しコンクリートのボリュームが優しい表情をつくる。エントランス・ポーチは川側に抜ける大きなゲートとされ、風景を切り取るとともに視線が行きかう抜け感が気持ちいい。対岸からみると中之島公園を背景とする舞台装置のようでもある。建物の周囲には多くの樹木が植えられとともに、登はん性植物が壁面を覆うことで最終的に建物全体がグリーンボックスになるという。時間を織り込んだ風景の作り込みも好ましい。府立中之島図書館、市中央公会堂など大阪の歴史とともにある建築が建ちならぶこの地に新たなレガシーが加わった。(審査委員 中嶋節子)

審査員特別賞 東大阪市文化創造館



建築位置：東大阪市御厨南2-3-4
完成年月：2019年6月
主用途：劇場
建築主：東大阪市(事業主：PFI東大阪文化創造館(株))
設計者：東大阪文化創造館設計・音響コンサル共同企業体
(佐藤総合計画・大林組・永田音響設計)、プレイスメディア
施工者：(株)大林組
撮影者：(有)A.P.First

〈講評〉本建物のコンセプトである「市民による文化芸術活動や交流が街に溢れること」が、外観や敷地全体に表出している。その象徴的存在が、敷地の南西角を大きく占める「街角広場」であり、高密度に広がる市街地に貴重なオープンスペースを提供している。恵まれた敷地条件を最大限にいかし、敷地と建物の一体化、巨大なボリュームの処理などの配慮が随所に伺える本建物は、将来のまちの景観をリードする存在として成熟していくであろう。(審査委員 吉村英祐)

緑化賞 都市クリエイト新社屋



建築位置：高槻市上田辺町19-8
 完成年月：2019年10月
 主用途：事務所
 建築主：都市クリエイト(株)
 設計者：大成建設(株)
 施工者：大成建設(株)（デザイン監修：隈研吾建築都市設計事務所）
 撮影者：(株)伸和

〈講評〉本施設は、敷地南側の建物際にシラカシを列植して、道行く人に緑量を提供するとともに、高架道路の威圧感を軽減している。低層住宅地に隣接する北側部分では、建物をテラス状にセットバックして圧迫感を軽減し、5階まで全てが緑化されている。特に、1階部分には、シダレザクラやイロハモミジが植栽され、周辺地域に対して春の桜や秋の紅葉といった季節感を供給し、さらに2階以上の上層階でのヤマザクラやヤマボウシ、ソヨゴといった植栽が緑視量の向上とともに里山的なイメージを醸し出している。
 （審査委員 下村泰彦）

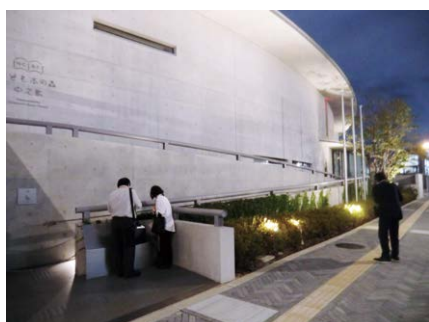
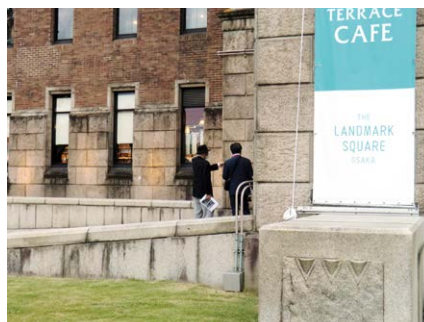
建築サイン・アート賞 大阪商工信用金庫 新本店



建築位置：大阪市中央区
 本町2-2-8
 完成年月：2017年6月
 主用途：事務所
 建築主：大阪商工信用金庫
 設計者：安藤忠雄
 建築研究所
 施工者：(株)竹中工務店
 撮影者：安藤忠雄
 建築研究所

〈講評〉アートがまちの記憶を継承してくれる、そのような実感が持てたのが、建築家今井兼次氏による、以前ここにあった東洋紡本町ビルの屋上レリーフ「糸車の幻想」である。その力強い糸車の表現は、かつての大阪繊維産業の繁栄も彷彿とさせる。2階レベルではあるが公開空地として解放され、水辺のベンチで眺められる。個人的にも本町通りと堺筋の交差点を通過する時、必ず見上げるのが習慣で、企業の文化貢献に感謝している。
 （審査委員 藤本英子）

審査風景



奨励賞 茶屋町あるこ周辺環境整備



建築位置：大阪市北区芝田1丁目 完成年月：2019年5月
 主用途：歩道、店舗、公共歩廊 建築主：阪急電鉄(株)
 設計者：(株)竹中工務店 (株)リックデザイン
 施工者：(株)竹中工務店 撮影者：母倉写真事務所

〈講評〉まちは公共と民間とのハーモニーで成立している、それを具現化した好事例となった。今回の整備は、ゆったり歩きたい歩行者と、店の演出を渗み出したい店舗側の思いが、ともに実現している。密集した都市空間使いの可能性が、店頭に溢れる魅力で感じられた。
 (審査委員 藤本英子)

奨励賞 ルイ・ヴィトンメゾン大阪御堂筋



建築位置：大阪市中央区心斎橋
 2-8-16
 完成年月：2019年12月
 主用途：商業施設
 建築主：ルイ・ヴィトンジャパン(株)
 設計者：大成建設(株)
 設計者(外装)：(株)AS
 施工者：大成建設(株)
 撮影者：Stéphane Murat

〈講評〉御堂筋は、御堂筋自身がクリマ性(風土)を主張していないぶん、コスモポリタンな概念でオシャレな自己主張をする建物が逆に要求される。ルイ・ヴィトンメゾンのデザインはまさにその総てを満たしていて見事に景観として存在感を示していて素晴らしい。
 (審査委員 嶋 高宏)

奨励賞 ミライザ大阪城



建築位置：大阪市中央区大阪城1-1 完成年月：2017年10月
 主用途：商業施設 建築主：大阪城パークマネジメント(株)
 設計者：大和ハウス工業(株)*表彰対象外 施工者：大和ハウス工業(株)*表彰対象外
 撮影者：(株)伸和

〈講評〉大坂城本丸に建つ第四師団司令部庁舎(1931年)の観光集客施設へのコンバージョンである。今回の工事では、竣工当時の意匠と材料が注意深く保存・復原され、往時の美しい外観、エントランス廻りがよみがえった。レストランとして開放された屋上からは大阪の風景がパノラマで広がり、すぐ目の前に大阪城天守閣が聳える。歴史的建造物の継承と新たな視点場の創出が高く評価された。
 (審査委員 中嶋節子)

奨励賞 あけぼのほりえこども園



建築位置：大阪市西區北堀江4-2-10 完成年月：2019年2月
 主用途：幼保連携型認定こども園 建築主：学校法人 あけぼの学園
 設計者：竹原義二/無有建築工房 施工者：(株)藤木工務店大阪本店
 撮影者：絹巻 豊

〈講評〉敷地接道部の透かし積みレンガ等の囲障により、園庭のクスノキ、トウカエデ等が視認でき、さらに屋上庭園を設けることで立体的な緑の繋がりを演出している。また、建物のセットバックにより、駐輪場等を軒下に収納させ、まちなみの連続性に配慮されている。
 (審査委員 下村泰彦)

奨励賞 追手門学院大学 ACADEMIC ARK



建築位置：茨木市太田東芝町1-1
 完成年月：2019年3月
 主用途：学校
 建築主：学校法人 追手門学院
 設計者：(株)三菱地所設計
 施工者：(株)竹中工務店
 撮影者：Masao Nishikawa

〈講評〉工場城下町として形成されていた都市景観がリセットされた場に対して、明快な建築形態と意図的な空地の相乗効果によって新たな景観の魅力を創出している。「建築には力がある」ことを再認識させるに足る野心的な計画である。(審査委員 寺地 洋之)

会長動静

- 2/28 滋賀県建築士会長面談
- 3/ 3 70周年事業対談(近大池田穂香氏)
近畿会長会議
- 3/ 8 大阪府収用委員会
- 3/11 ヘリテージ委員会関係意見交換会
運営部門会議
- 3/16 理事会、正副会長会議
- 3/17 日本建築士会連合会理事会
- 3/18 消費者5団体意見交換会
- 3/21 日本建築士会連合会国際委員会
- 3/25 第31回あすなろ夢建築表彰式

3月度 理事会報告

- ・濱田徹副会長から3年秋の褒章受章に伴うご寄附を拝受し謝意を表しました。
- ・飯田英二常任理事と田代加奈理事に大阪府知事表彰の受賞内示に祝意を表しました。

(1) 入退会の承認

(人)	2月	入会	退会等
正会員	2,416	6	6
準会員	38	0	0
特準会員	27	0	0
賛助会員	142	0	0
計	2,623	6	6

(2) 会計報告

(円)	2月計	累計
収入	7,663,407	133,430,630
支出	11,515,006	123,755,864
差引	△3,851,599	9,674,766

上表の当期経常増減明細を承認しました。

(3) 収支決算見込み

本月現時点での年度末決算を試算し、約34万円の赤字見込みを報告しました。今年度も、長く続くコロナ禍の影響が大きく、研修会・見学会等の事業で受講者数が制約されたこと等で、公益目的事業は予算から約80万円の減収になる見込みです。

その中で建築士試験、定期講習、空家撤去事業、マンション関連業務などの受託事業は感染防止対策のうえで実施を重ね、CPD登録、Q&A図書販売、建築士登録業務、建築情報部門事業の堅調な推移と管理費等の支出削減により、年度末決算の収支額は概ね均衡する見通しを報告しました。

(4) 令和4年度の事業計画(案)

令和4年度事業計画について、公益社団法人としての基本目標を定めるとともに、公益目的事業部門は(公1)地域社会へ貢献を図る事業、(公2)建築文化の発展を図る事業、(公3)建築士の育成等を図る事業の3区分、及び収益事業部門とその他事業部門の3部門とした事業内容とその目的を審議し、承認しました。

(5) 令和4年度の収支予算(案)

令和4年度予算は各部門の実績提示額を基に編成を調整・審議し、収支総額13,642万円、差引額0円の予算案を承認しました。

次年度の会費は、賛助会社の紹介による約70名の入会予定と入退会の差引人数を年間50名の退会と想定した収入を見込み、建築士試験業務や定期講習の一部インターネット化の促進等による受託料の減額予測や、一般事業のWeb化と受講者数の制約等により、収支規模は縮小することになりました。

(6) 資金調達及び設備投資の見込み

令和4年度に資金調達及び設備投資の見込みはないことを承認しました。

(7) 定時総会の開催日時と会場

令和4年度定時総会を5月18日(水)にKKRホテル大阪で開催することを承認しました。

(8) 令和4年度の組織・会務分掌(案)

令和4年度の組織は、2022年の70周年の実施、2025年の建築士会全国大会「大阪大会」の準備を見据えて、これまで特別PTの記念行事委員会を事業部門に移行しました。

理事の会務分掌案は、次期役員候補者を

含む理事48名、監事2名による構成とし、承認を受けた役員候補者は5月の定時総会で選任される予定です。

(9) 日本損害鑑定協会との基本提携の覚書
日本損害鑑定協会と教育研修の連携、技術的な交流、災害時等の社会貢献を協力事項に掲げ、覚書を締結することを承認しました。

(10) 近畿の建築士会会長会議で、大阪の岡本会長を連合会副会長に推薦することが報告されました。

消費者団体との意見交換会



関西消費者連合会の砂田八寿子様、大阪府地域婦人団体協議会の林佐知子様、消費者情報ネットの竹谷孝枝様、全国消費生活相談員協会関西支部の亀田孝子様、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント相談員協会西日本支部の森田里花様を招き、本会からは岡本会長、上田副会長、濱田副会長、田中副会長、石貫副会長、田代建築相談委員長、橋本幹事らが出席し、意見交換を行いました。

コロナ禍における本会の電話相談内容をもとにリフォーム、住宅バリアフリー、防災などについて有意義な意見を交わすことができました。

大阪市から高齢者住宅改修費給付審査業務を受託

令和4年度の「大阪市高齢者住宅改修費給付事業」の審査業務を昨年度に引き続き受託することとなりました。

令和3度は書類審査61件と訪問・現地調査は17件でした。

大阪府建築士会・大阪弁護士会共催 建築紛争セミナー6「建築工事の中断」

日時：令和4年2月28日(月) 18:00～20:00

会場：大阪弁護士会館

会場参加者：建築士15名、弁護士20名 オンライン参加者：建築士38名、弁護士60名



田代加奈(建築相談委員会委員長)

大阪府建築士会・大阪弁護士会 共催セミナーも回を重ね第6回を迎える事となりました。コロナ禍という事もあり、会場参加とオンライン参加の併用でしたが多くの方にご参加いただきました。今回は「建築工事の中断」がテーマでした。岩佐弁護士をコーディネーターに南、津村建築士と重村弁護士がそれぞれの立場で建築工事の中断についてディスカッションする形式で開催されました。冒頭は建築士会濱田副会長の挨拶から始まりました。建築士より建築工事の中断に至る典型的理由は施主側、設計者側、監理者側、施工業者側それぞれの立場でありえると説明がありました。中断により発生する施主と設計者間では契約の解除の可否、損害の算定、設計の引継ぎ、設計報酬請求など、施主と施工業者間では契約の解除の可否、損害の算定、工事の引継ぎ、工事請負代金の請求、そもそも工事を完成する事ができるのか

といった問題が起こります。重村弁護士からはそれらの問題に関する帰責事由とそれぞれの争点についての法的構成を民法の条文と共に解説していただきました。当事者間だけでは解決しづらい問題も弁護士が関与する事で事実と証拠、法的見解で根拠を導き出し、解決する様子を知ることができました。建築士として万が一当事者になってしまう場合の事を考え、日頃から出来高、業務記録、保険の加入などリスクを軽減する事、証拠を残しておく事が重要と学びました。その後、建築士から建築相談、現地相談等で経験した様々な事例の紹介がありました。最後に弁護士会安部副会長の閉会挨拶でセミナーが終了しました。弁護士会との共催セミナーでは民法の条文、法律的用語が多く勉強不足を痛感致しますが、この条文によって根拠が明確になる事実

を知る事はとても大切な事なので、今後も弁護士会との共催セミナーは継続して頂き学びたいと思います。

コロナ禍の中、会場開催が実現できるか、オンライン開催が上手くできるかなどの問題を抱えつつ、弁護士会、建築士会共にご担当者への入念な打ち合わせを重ね、このセミナーを開催する事を出来たことを報告させていただきます。



建築相談室から(60) 2020年度の建築相談室

建築人に建築相談室が帰ってきました。休載期間中にできていなかった2020年度の建築相談室の活動についてまとめたいと思います。2020年度は新型コロナウイルス感染症ができて、2020/4/7(火)～5/21(木)、2021/1/14(木)～2/28(日)の2回にわたる緊急事態宣言があり、その間建築相談も休会となっていました。しかし、建築相談委員会建築相談はできる限りの相談対応を行っています。

全体の相談件数

全相談件数は568(前年度766、前々年度1219)件でした。年間相談日数は175日(同234、238日)であり、1日平均3.2件(同3.3、5.2件)でした。4月は5日のみ、1月は7日のみ、5月と2月は相談日がなく、例年より約60日相談日数が減りましたが、1日の相談件数は昨年までと同様3件程度でした。月ごとの

相談件数をグラフに示します。

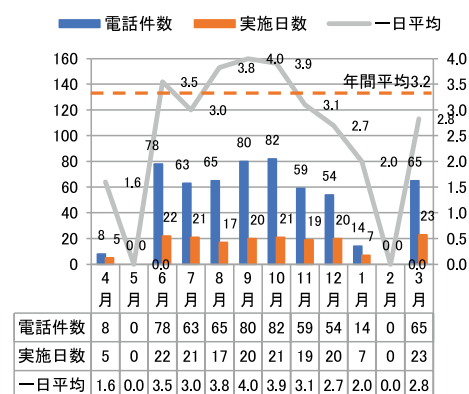
相談内容の特徴

2020年度の特徴は、前年度から相談件数が約3/4になっているにもかかわらず、「耐震診断・設計・改修」は増えており、「敷地・境界・地盤・擁壁」はほぼ変わっていません。「インスペクション」「空き家相談」の横ばい又は微増しました。一方で、「リフォーム」「品質・瑕疵保証・保険・法確認(含 現状の確認・問題がないかの相談・心配事)」は減少しており、特に「対施工者」とトラブルになった相談が半減していました。コロナ禍にあって新築需要が減り工事中に不安に思う案件が減ったと考えられる一方で、耐震診断、擁壁、インスペクション、空き家などについて既存の建物に対する懸念することが増えたと考えられます。新型コロナによる巣ごもりは、建物

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)

を含めた自分たちの身の回りを考える時間やきっかけを与えてくれたのかもしれない。ここで書き切れなかった、本報告の詳細な内容は大阪府建築士会・建築相談室のホームページでご覧いただけます。

月ごとの相談件数の推移



カンボジアのモダニズム建築に魅せられて

オリンピック・スタジアム 一九六四年

文・写真 松隈 洋 [京都工芸繊維大学教授]

今から八年前の二〇一四年二月、国際交流基金からの突然の依頼を直前に受けて、東南アジアのカンボジア王国の首都プノンペンを初めて訪れる機会があった。四日間の滞在中に求められたのは、開催中の「パラレル・ニッポン現代日本建築展1996-2006」に合わせて、現地の建築家と学生向けの講演を二回行い、日本の建築文化への理解と関心を高め、情報交流を促進させるというミッションだった。日本の現代建築を写真パネルと

模型で紹介する世界巡回の建築展の関連事業であり、近代建築を専門とする筆者に何が話せるのか。不安と戸惑いの方が大きかった。

それでも行ってみようと思ったのは、ヴァン・モリヴァン（一九二六（二〇一七年）というカンボジアの戦後建築を主導した重鎮の建築家に会う機会があること、彼がル・コルビュジェに憧れ、丹下健三を尊敬していると聞いたからだ。おりしも、前年の二〇一三年には、香川県立ミュー

ジアムで開催された生誕百年・丹下健三展の実行委員を務めたので、何かの縁も感じた。また、事前に渡された資料から、モリヴァンの建築には、ル・コルビュジェのインドの仕事ともつながる、モダニズム建築の風土や歴史との遭遇による「土着化」と呼べるような実践が読み取れると思えたのだ。そんな想像から、講演では、「風土に育つ近代建築—ル・コルビュジェの受容と展開から見ると日本の近代建築の特質」と題して、前川國男、坂倉準三、吉阪隆正、丹下健三について話すことにする。

さて、こうして真冬の京都から熱帯のプノンペンへ入り、最初に案内されたモリヴァンの建築が、八千人収容の屋内競技場と七万人収容の陸上競技場などから構成されたオリンピック・スタジアムと呼ばれるスポーツ施設群（一九六四年）だった。全体を覆う水平屋根と陽射し避けの縦ルーバーに包まれた量感ある客席からなる力強い外観に圧倒される。内部に入ると、外観とはうって変わって、縦ルーバーと客席の段床の隙間から降り注ぐ自然光に満ちた荘厳な空間が広がっていた。隣接する陸上競技場も、屋内競技場と対比的な伸びやかなランドスケープをつくり上げている。偶然にも同じ年に竣工した丹下の国立屋内総合競技場を凌駕するほどの、それらの存在感

オリンピック・スタジアムの
屋内競技場の外観



陸上競技場のトラックから見る
メイン・スタンド



は、どのようにして生み出されたのか。それは、モリヴァンが先に手がけた独立記念塔（一九五八年）と同じく、アンコール・ワットなど石造文化の遺産から得たものに違いはない。また、チャトモック国際会議場（一九六一年）ではクメール王朝時代

の伝統的な木造建築からそのモチーフが巧みに取り入れられていた。こうして、三〇代の若きモリヴァンが、一九五三年のフランスからの独立後、シハヌーク殿下の庇護の下、カンボジアのアイデンティティとなる象徴的な建築を次々と手がけていった太い幹のような道筋が見えてきた。そして、二月二〇日の午後、プノンペン市内にある事務所兼自邸（一九六六年）にモリヴァン氏を訪ねた。小一時間ほどの面談の中で、彼は、生前の前川や丹下、鈴木博之と親交があり、来日した際には東京文化会館を見学して感動したと語る。穏やかな語り口の中にカンボジアへの愛情と建築家としての使命感、深い建築思想を感じ取れ、「生誕一〇〇年・前川國男展」図録を持参して良かったと思えた一時だった。

だが、彼のカンボジア独自のモダニズム建築を切り拓く仕事は、長くは続かなかつた。カンボジアの現代史に暗い影を落す一九七〇年代のポル・ポト政権下には、スイスへの亡命を余儀なくされる。そして、二〇年ぶりに帰国した一九九三年以降は、アンコール遺跡の保存修復に尽力するなど地道な活動を続けていた。しかし、現政権下で厚遇されているとは言えない状況に置かれていることが、図らずも筆者が同席した政府高官と彼との面談の席でも感じられた。こうして迎えた最終日の二月二二日、カンボジア工科大学の学生を前にした講演では、最後に、僭越ながら見たばかりのモリヴァンの仕事の偉大さを伝えたところ、最前列の席からおもむろに立ち上がり、学生に激励の言葉を発した彼が、大きな拍手に包まれる光景にも出会えた。幸いにも、その七ヶ月後の九月には、国際交流基金の支援を得て、彼の協同者らを韓国で開催された DOONOMO 世界大会へ招聘し、基調講演者の横文彦氏と関係者に引き合わせる事ができた。そして、こうした経緯が実を結んだからなのか、二〇一七年十二月、残念ながら彼の生前には間に合わなかったが、ゲスト・エディター岩元真明の編集により、『+』特集号が発刊され、その仕事の全体像が紹介されたのである。さて、以上の話には予想もしなかった後日談がある。八年前の講演を聴いていた一人の学生が、日本に興味を抱き、筆者の大学に留学生として入学してきたのだ。そして、今年二月、その学生チウ・エツタイ (Chiv-Exhai) 君は、コロナ下の不自由な環境の中で地道な調査を進め、カンボジアの近代建築の空白期である一九七〇年以降の歴史を調べ上げた修士論文を提出したのである。つい先日、彼は、卒業後も日本に留まり、設計コンサルタント事務所で仕事を覚えた後、将来的には祖国へと戻り、モリヴァンの果すことのできなかつたカンボジアの現代建築の道筋を切り拓いていきたい、と話してくれた。勝手な推測ながら、カンボジアの政情を思えば、この八年間を、きつと彼は苦学して日本で建築を学び続けてきたのだと思う。不思議な縁から筆者が訪れたカンボジアで幸運にも出会えたヴァン・モリヴァンの意志が、遠い異国で社会に踏み出すエツタイ君へと引き継がれ、いつの日か、カンボジアの建築文化の発展へとつながっていくことを祈りたい。

変わること、 変わらないこと。

大量生産・大量消費ではなく、
確かな品質と美意識を宿した製品が、
時代を超えてながく愛されること。

私たちユニオンは、
創業からずっと、持続可能な未来の在り方を見つめ、
ドアハンドルを“アートウェア”と呼べる
領域にまで高めてきました。

そして今、ものづくりのさらなる持続性を追求し、
役目を終えた製品をアップサイクルすることで
新たな循環を生み出そうとしています。

時代がどのように大きく変化しようとも、
私たちはこれからも
地球基準のアップデートを重ねていきます。

アートウェアの本質を、変えることなく。

UNION
ARTWARE



New Catalog Archism Series 2022-2023
最新カタログ[アーキズムシリーズ]

カタログ請求はwww.artunion.co.jpよりお申し込みください。

[本社・大阪支店] 550-0015 大阪市西区南堀江2-13-22 tel 06-6532-3731
[東京支店] 135-0021 東京都江東区白河2-9-5 tel 03-3630-2811
[名古屋営業所] 454-0805 名古屋市中川区舟戸町3-20 tel 052-363-5221
www.artunion.co.jp



内外一体のリブウォールと大階段 (エントランスロビー)



街に潤いと交流をもたらす「街角広場」